

がん治療は一種の情報戦で、正しい情報を手に入れるかどうかで治療の成否を左右します。そして初回の治療が鍵で、いったん再発してしまうと、例外はあるものの治療は難しくなります。この点で、がんの治療は敗者復活戦なしの一発勝負といえるかもしれません。

がんと診断された後の病院

がん社会 を診る

中川 恵一

選びが非常に大事になるのはこのためです。どこで治療を受けたらいいのか、ほとんどの患者が深く悩みます。実際、自宅の近くの病院で治療を受けた後に再発してしまい、後悔している患者を何人も知っています。

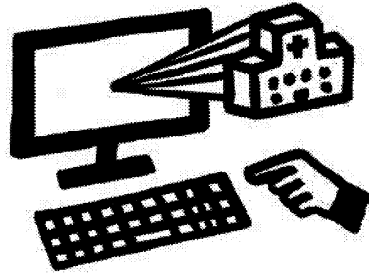
がん治療に関する情報収集でもインターネットは便利ですが、情報があふれているの

正しい情報入手が大事

で、正しいものを見分けるのは容易ではありません。たとえば、「肺がん治療」というキーワードで検索すると、膨大な数のウェブサイトがヒットして、どれを見ればいいのか迷ってしまいます。

加えて、検索結果の上位のサイトには、免疫療法や健康食品を勧めるものも多く、これらの科学的な根拠は十分とはいえません。それどころか、体に有害なものもあるので要注意です。信頼できるのは国立がん研究センターの「がん情報サービス」などといった公的な組織が運営しているサイトでしょう。

ちまたでよく見かける「病



イラスト・中村 久美

院ランキング」の類も、信用度が高いものばかりとは限りません。ランキングの基準は、治療件数だったり、患者の満足度だったり、スタッフや設備の充実度だったりとまちまちです。たとえば、治療件数だけでは治療の内容までは分かりません。

まずは「がん診療連携拠点病院」など、がんの治療実績が豊富な病院を受診することをお勧めします。この拠点病院は、全国どこにいても質の高いがん医療が受けられるように、厚生労働省が都道府県ごとに何力所かず指定した病院のことです。専門的ながん医療の提供、他の医療機関との連携、患者や家族への相談支援や情報提供など、地域のがん医療の中心となっています。

現在、全国に約400カ所ある拠点病院には「がん相談支援センター」が設置されています。別の医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」とともに大いに活用したいものです。(東京大学病院准教授)